

# 乳児期の父親の育児への関わりと 16歳時点での心理的 ウェルビーイングとの関連

加藤承彦

国立成育医療研究センター・社会医学研究部

論文情報 : Kato, T., et al. The long-term association between paternal involvement in infant care and children's psychological wellbeing at age 16 years: An analysis of the Japanese Longitudinal Survey of Newborns in the 21st Century 2001 cohort. *Journal of Affective Disorders*.  
<https://doi.org/10.1016/j.jad.2022.12.075>

# Research Question

## 乳児期の父親の育児への関わりと16歳時点での子どもの心理的ウェルビーイングに関連は見られるか？

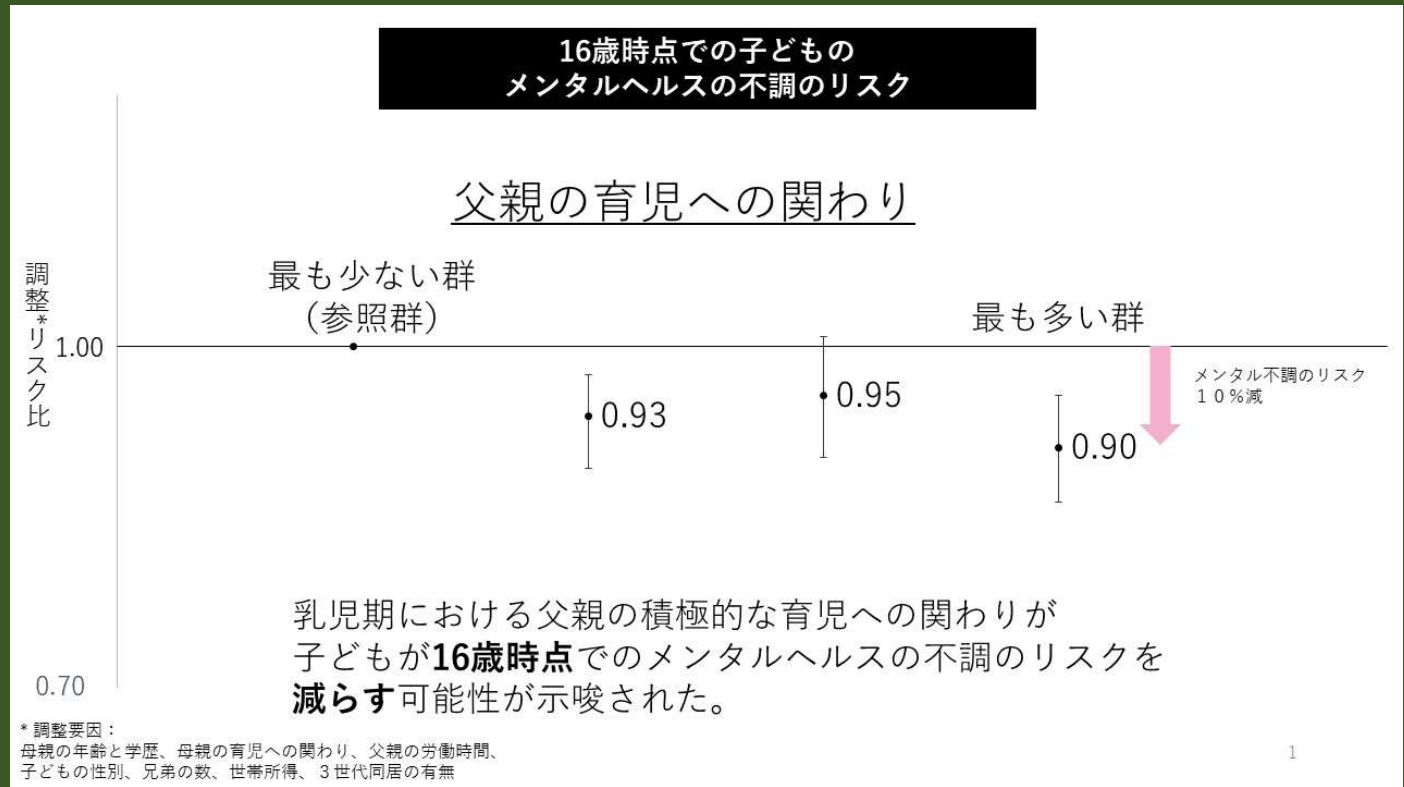
• データ：  
21世紀出生児縦断調査  
(平成13年コホート)

• 分析対象者：18510人

• 要因：  
父親の育児への関わり  
(第1回)

• アウトカム：  
16歳時点での心理的ウェルビーイング (WHO-5)  
(第16回)

### 結果：



乳児期における父親の積極的な育児への関わりが子どもが**16歳時点での心理的ウェルビーイングの低下のリスクを減らす可能性が示唆された。**

# 背景

思春期の子どもたちのメンタルヘルスの不調は、一般的である。

(Kieling et al. 2011; Polanczyk et al. 2015; Gore et al. 2011)

日本においては、思春期の子どもたちの不登校や自殺が問題となっているが、この年齢層の子どもたちのメンタルヘルスに関する大規模な疫学調査は実施されていない。

# 背景

思春期の子どものメンタルヘルスには、  
様々な要因が関連していることが明らかになっているが、  
その一つに親子関係が挙げられている。

(Patel, 2007; Shorey et al. 2022; Yap et al. 2014; Yuen et al. 2019)

早期から、父親が育児にかかわることで、  
良好な親子関係が形成され、思春期のメンタルヘルスに  
影響を及ぼす可能性がある。(Cabrera, 2020; Deneault et al. 2021)

# 目的

英国の縦断調査データを用いた疫学研究はいくつかあるが、一貫した知見は得られていない。

(Opondo et al. 2017; Opondo et al. 2016; Scourfield, 2016; Flouri, 2016)

日本の大規模縦断調査データを用いて、乳児期の父親の育児への関わりに長期の影響があるかどうかを検証する。

# 方法

- **対象** : 厚生労働省が実施する**21世紀出生児縦断調査**（平成13年出生児）データ（18510名分）
- **分析対象** : 単胎・正期産・ふたり親世帯で、第1回調査時に父親がフルタイムで40時間以上働いており、母親が初回調査に回答しており、分析項目に欠損がなく、第16回に回答している18510名を対象とした。
- **曝露** : 第1回調査時点での父親の育児への関わり6項目の質問をスコア化した上で4分位した（次スライド参照）。
- **アウトカム** : 第16回調査の心理的ウェルビーイングに関する尺度（WHO-5、次次スライド参照）の合計点数をカットオフ値で2値化し、12点以下をウェルビーイング低下とした。

# 父親の育児への関わりの質問項目 (6か月時点)

1. 食事の世話をする
2. おむつを取り換える
3. 入浴させる
4. 寝かしつける
5. 家の中で相手をする
6. 散歩など屋外に連れて行く

「いつもする (3) 」  
「時々する (2) 」  
「ほとんどしない (1) 」  
「まったくしない (0) 」  
の4択

合計値を4グループに分けた

# 心理的ウェルビーイング (WHO-5) (16歳時点)

最近2週間、私は

1. 明るく、楽しい気分で過ごした
2. 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした
3. 意欲的で、活動的に過ごした
4. ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた
5. 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった

「いつも (5) 」

「ほとんどいつも (4) 」

「半分以上の期間を (3) 」

「半分以下の期間を (2) 」

「ほんのたまに (1) 」

「まったくない (0) 」の5択

合計点をカットオフ値 (12/13点) で分けた



# 方法

## ■統計解析：

Log-binomialモデルを用いてリスク比（RR）と95%信頼区間（CI）を算出

### • 調整項目：

子どもの性別、兄弟の数（第1回調査）、母親の年齢、母親の教育歴、  
母親の育児への関わり（第1回）、父親の労働時間（第1回調査）、  
祖父母との同居の有無（第1回調査）、世帯所得（第1回調査）

### • 解析ソフト：STATA SE ver.17

# 16歳時点での子どもの 心理的ウェルビーイング低下のリスク

## 父親の育児への関わり

最も少ない群  
(参照群)

最も多い群

調整  
リスク比

1.0

0.90

0.92

0.88

0.70

乳児期における父親の積極的な育児への関わりが  
子どもが**16歳時点での心理的ウェルビーイングの低下の**  
リスクを**減らす**可能性が示唆された。

# 考察

- 父親の積極的な育児への関わりの長期的な効果が示唆された。
- 父親の育児への関わりの長期的な効果については、英国の縦断データでしか検証されておらず、日本を含むアジア圏の国々のデータを用いた研究は、初めてである。

この関連のメカニズムの説明として、下記の可能性が考えられる。

- 父親が早期から積極的に育児に関わることで、長期的に良好な父子関係が形成され、子どもの心理的安定につながる。
- 父親が積極的に関わることで、子どもの社会情緒的な発達が促進される。

# 結論

- 乳児期に育児への関わりが少なかった父親の群と比較して、より積極的に関わっていた父親の群では、16歳時点での心理的ウェルビーイングが低いリスクが低かった。
- 早期に父親が積極的に育児にかかわることが、将来的に思春期の子ども心理的ウェルビーイングの低下を予防する可能性が示唆された。

# 自己紹介

家庭環境・育児に関する研究をしております。  
詳細は、下記のHPを御覧ください。

<https://researchmap.jp/0805/>

父親の育児への関わりに関する研究に興味がある方は、  
ぜひ下記の連絡先にご連絡ください！

[fmc@ncchd.go.jp](mailto:fmc@ncchd.go.jp)

